

最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

あく手のまほう

横浜市立師岡小学校（港北区）

三年 堀江海翔

「あく手って、なかよくなれるまほうだな。」これは夏休みにぼくが気がついたことです。ぼくは、この夏しようがいがある子が色々なスポーツにチャレンジするイベントの、お手つだいボランテアをしました。

はじめは、しようがいがある子に、どうせしたらいいかわからなくて、ふあんな気もちでしたが、大人のボランテアの方から、「目を見て話すこと。」と、「名前をよんであげること。」そして、一番大切なのは、スポーツをした後に右手と右手であく手をして、「ありがとう。」ということだと教えてもらいました。

イベントが始まって、はじめは名前をよぶのも、目を見て話すのも、ドキドキして、小さ

な声しか出せませんでした。でも時間がたつにつれて、だんだんなれてきて大きな声が出せるようになりました。はずかしくていやだなあと思っていたあく手も、やってみたらすくいやな気もちがきえました。そして、友だちになれた気がしました。ぼくは、あく手つてなかよくなれるまほうだなと思いました。その日はさいこうの日になりました。いろいろな子と、あく手してなかよくなれました。どきどきから始まったボランテニア体けんだったけれど、終わった時にはすつきりした気持ちとあたたかい気持ちで心がいっぱいになっていました。

ぼくがしようがいをもっている子とあく手でなかよくなれたみたいに、人と人はもつとあく手するといと思います。友だちとけんかをしてしまった時も、かなしい気持ちになっている子とも、あく手することでもなかよくなれると思います。

手と手をにぎるだけのかんたんな「あく手」だけれど、あく手には心があたたかくなるすごいまほうがあると思いました。